

資料提供
 令和6年7月11日
 課名 環境県民局県民活動課
 担当者 課長 中村
 内線 2739
 直通 082-513-2740

件名	2024年度ニッセイ財団「児童・少年の健全育成助成」 「生き生きシニア活動顕彰」の贈呈式について			
1 趣旨	公益財団法人日本生命財団が青少年健全育成などを目的として実施している助成事業において、助成を受ける団体（広島県分）が決定し、目録贈呈式が開催される。 また、贈呈式終了後、助成団体の活動状況の紹介、意見交換などを行う。			
2 広島県における被助成団体				
(1) 「児童・少年の健全育成助成」				
【助成対象】	児童・少年の健全育成のため、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育む活動を定期的・日常的に継続して取り組んでいる団体			
【助成金額】	1団体当たり30万円以上60万円以内			
	団 体 名	所在地	活 動 内 容	助成額
	中条少年野球クラブ	福山市	地域に根ざしたスポーツ活動を通しての児童の健全育成	52万円
	庚午子ども太鼓団－陽桜－	広島市	創作太鼓・和太鼓演奏活動を通しての児童の健全育成	60万円
	大芝少年野球クラブスポーツ少年団	広島市	地域に根ざしたスポーツ活動を通しての児童の健全育成	59万円
	やが和太鼓クラブ	広島市	創作太鼓・和太鼓演奏活動を通しての児童の健全育成	60万円
	矢野ファイターズスポーツ少年団	広島市	地域に根ざしたスポーツ活動を通しての児童の健全育成	60万円
	合 計（5団体）		助成総額（291万円）	
(2) 「生き生きシニア活動顕彰」				
【助成対象】	高齢者による「児童・少年の健全育成活動、障がい者支援活動、高齢者支援活動、地域づくり活動など」に取り組んでいる団体			
【助成金額】	1団体当たり 5万円			
	団 体 名	所在地	活 動 内 容	助成額
	よかよか倶楽部	広島市	高齢者の居場所づくり	5万円
	東原百働会	広島市	高齢者の居場所づくり	5万円
	五日市音訳グループ	広島市	手話・点訳・朗読ボランティア活動	5万円
	合 計（3団体）		助成総額（15万円）	
3 贈呈式				
(1) 日時	令和6年7月16日（火）13:30～14:30			
(2) 場所	県庁北館2階第1会議室			
(3) 出席者	被助成・被顕彰団体 各団体代表者 （公財）日本生命財団 代表理事常務理事事務局長 水野 充彦 日本生命 広島支社 支社長 田島 一也 広島県 環境県民局長 信夫 秀紀			
取材に当たってのお願い	子供たちの自主性や社会性を育む活動及び高齢者の地域貢献活動がより一層活発化するよう、広く報道してください。			

2024年度

**児童・少年の健全育成助成 生き生きシニア活動顕彰
助成・顕彰団体決定**

今年度は全国で258団体・1億2,781万円の児童・少年の健全育成助成と
216団体・1,080万円の生き生きシニア活動顕彰を実施します。
財団設立からの累計(1979年~2024年)は、18,148団体・92億円になります。

広島県では、児童・少年の健全育成助成

中条少年野球クラブはじめ5団体が
決定いたしました。

生き生きシニア活動顕彰3団体が決定いたしました。

1979年の助成開始から46年の累計は

広島県内 389団体 2億932万円 となりました。

2024年7月

公益財団法人 日本生命財団

この件に関するお問い合わせ先

〒541-0042 大阪府中央区今橋3-1-7

日本生命財団 助成事業部

TEL : 06 (6204) 4014

FAX : 06 (6204) 0120

日本生命財団は、日本生命保険相互会社が創業90周年
を迎えるに当たり、より継続的かつ普遍的な社会貢献を行
うため1979年に設立された助成型財団です。

以来「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に
資すること」を目的として、児童・少年の健全な育成、
高齢社会福祉、環境問題などの分野を中心に助成活動を行
っております。

ホームページ <https://nihonseimei-zaidan.or.jp>

広島県への助成累計は389団体—2億 932万円になりました

日本生命財団は、1979年の設立以来、児童・少年の健全育成に取り組んでいる団体に対して、活動に必要な物品を助成してまいりました。

児童・少年の健全育成助成
今年度は5団体に291万円を助成

また、元気で活力に満ちた高齢者が主体となって地域貢献活動を行う団体を顕彰しております。

生き生きシニア活動顕彰
今年度は3団体を顕彰

～助成・顕彰団体への目録贈呈式を全国の都道府県で開催～

目録贈呈式を次のとおり開催いたします。

日 時	7月16日（火） 午後1時30分～
場 所	広島県庁 北館 2階 第1会議室
出席者	受 贈 者：8団体 広 島 県：環境県民局長 信夫 秀紀 様 日本生命：広島支社長 田島 一也 ニッセイ財団：代表理事常務理事事務局長 水野 充彦

2024年度
ニッセイ財団
児童・少年の健全育成助成(物品助成)の概要

未来をになう子どもたちが、心ゆたかに成長することをめざして

日本生命財団は、1979年7月の設立以来、人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを目的として活動しております。
児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育てていくことが必要です。
このような活動に定期的かつ日常的に継続して取り組んでいる民間の団体・グループに対して、その活動に常時・直接必要な物品を助成しております。

おかげさまで財団設立以来46年継続して、全国1万4千を超える団体に助成

児童・少年の健全育成助成(物品助成)は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。
助成金額は、1団体30万円～60万円です。
助成物品は、助成対象活動を継続的に展開するためにはなくてはならない直接活用物品で、子どもたちが待ち望み、子どもたち自らが主体的・継続的に共有して活用する物品としております。

- ◆2024年度は、全国各地の258団体に総額1億2,781万円の助成を行います。
- ◆財団設立から46年の累計実績は、1万4千団体・91億円を超えております。

子どもたちの生きる力を育むさまざまな活動を応援

次のような活動を行っている団体に助成いたします。

<2024年度助成258団体の内訳>

「異年齢・異世代交流活動」	138団体
「自然と親しむ活動」	47団体
「子育て支援活動」	43団体
「フリースクール活動」	17団体
「療育支援活動」	13団体

情報誌「F u - m i」の発行

当助成が多くの方々のお役に立つことを願い、助成制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容および助成物品の活用事例などをご紹介する情報誌「F u - m i」を発行しています。

*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以上

2024年度 ニッセイ財団 生き生きシニア活動顕彰の概要

元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動に対して

わが国は少子高齢社会を迎えており、元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動が注目されております。

日本生命財団では、高齢者が主体となって行う地域貢献活動を顕彰し、地域活動の輪を広げてまいります。

2007年の制度発足からこれまでに3,460団体を顕彰

生き生きシニア活動顕彰は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。

児童・少年の健全育成活動、地域づくり活動、高齢者支援活動、障がい者支援活動など的高齢者による“生き生きシニア活動”に取り組む民間の団体・グループに対して、1団体5万円の顕彰を行います。

- ◆2024年度は、全国各地の216団体に1,080万円の顕彰を行います。
- ◆2007年の制度発足からの累計実績は、3,460団体・17,300万円となっております。

さまざまな“生き生きシニア活動”を応援

次のような活動を行っている団体を顕彰いたします。

<2024年度顕彰216団体の内訳>

「高齢者支援活動」	123団体（高齢者向けサロン、訪問ボランティア等）
「地域づくり活動」	48団体（環境美化・環境保護活動、ボランティアガイド活動等）
「児童・少年の健全育成活動」	35団体（登下校時見守り活動、伝承芸能の継承等）
「障がい者支援活動」	10団体（手話・点訳・朗読ボランティア活動等）

情報誌「F u - m i」の発行

当顕彰が多くの方々のお役に立つことを願い、顕彰制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容などをご紹介する情報誌「F u - m i」を発行しています。

*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以 上

2024年度 ニッセイ財団 生き生きシニア活動顕彰 決定団体一覧

34 広島県

コード	団体名 活動の内容	顕彰内容	顕彰額 (千円)
3451	よかよか倶楽部 III-1 高齢者の居場所(サロン)づくり	活動顕彰	50
3452	東原百働会 III-1 高齢者の居場所(サロン)づくり	活動顕彰	50
3453	五日市音訳グループ II-1 手話・点訳・朗読ボランティア活動	活動顕彰	50

合計 助成件数 3 件 助成決定額合計 150 千円

日本生命財団の概要

NIPPON LIFE INSURANCE FOUNDATION 2024.4



公益財団法人 日本生命財団



ごあいさつ

公益財団法人 日本生命財団(ニッセイ財団)は、日本生命保険相互会社が、創業90周年を迎えるに当り、同社創業以来の共存共栄、相互扶助の精神に基づき、「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資すること」を目的として、1979年7月に設立された助成型財団でございます。

とりわけ、「変化する時代・社会的要請に柔軟に対応して公益事業を進め、都市部のみならず日本全国を対象とした社会還元を行う」という機能・役割を託されました。

以来、この目的と付託された機能・役割を達成するため様々な検討を重ね、主に児童・高齢・環境の三分野を中心として、以下の6つの助成事業を進めております。



2023年度は、概ねコロナ禍以前の状態に戻り、全47都道府県での贈呈式開催等、関係各位のご協力により、各助成は滞りなく実施することができました。

これからも、SDGs等新たな時代の動きを踏まえながら、真に豊かな社会づくりに役立つことを目指し、努力を続けて参ります。

引き続き皆様方の深いご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



会長 山極 壽一



理事長 林 武史

日本生命財団の助成事業の概要

▶ 助成事業

児童・高齢・環境の三分野を中心に、6つの助成事業を実施しております。児童・少年の健全育成助成(物品助成)、および生き生きシニア活動顕彰の2事業は、「都道府県助成領域」として全都道府県のご協力を得て進めております。

領域区分	助成事業名称	概要	関連ページ
都道府県助成領域	児童・少年の健全育成助成 (物品助成)	子どもの健全育成に向け活動する地域の団体へ必要な物品を助成	P3
	生き生きシニア活動顕彰	高齢者が主体となる地域貢献活動を顕彰	P6
研究・地域活動助成領域	児童・少年の健全育成助成 (実践的研究助成)	子どもの健全育成に資する研究に取り組む研究者等への研究助成	P4
	高齢社会助成	高齢社会の課題解決に資する活動・研究に助成	P5
	環境問題研究助成	環境問題研究に取り組む研究者等への研究助成	P7
	出版助成	環境助成の成果出版と博物館展示案内助成	P8

▶ 助成実績

1979年の財団設立以来、累計で21,489件、総額181億4,700万円を助成しております。

助成事業名称	2023年度実績		累計実績	
	件数	金額	件数	金額
児童・少年の健全育成 (物品助成)	256件	1億2,707万円	14,430件	89億9,300万円
児童・少年の健全育成 (実践的研究助成)	13件	1,963万円	56件	7,700万円
高齢社会助成	15件	2,448万円	624件	17億1,600万円
生き生きシニア活動顕彰	214件	1,070万円	3,244件	1億6,200万円
環境問題研究助成	28件	4,000万円	1,332件	30億1,200万円
出版助成	4件	676万円	397件	13億8,100万円
合計	530件	2億2,864万円	21,489件	181億4,700万円

(累計実績の金額は百万円未満切り捨て)

助成趣旨

当財団は、活力あふれる真に豊かな社会の実現にむけて、次代をになう子どもたちがたくましく心豊かに成長することをめざしております。

児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育てていくことが必要になっています。

そこで、当財団は、地域活動の一環として定期的・継続的に実施している子どもたちが行う自然体験・生活体験活動、仲間づくりや文化の伝承活動、地域の子育て支援活動に対して、都道府県知事のご推薦に基づき助成し、活動の輪を広げてまいります。

助成概要

上記趣旨のもと、活動に常時・直接必要な物品の助成を行っております。

分野	1 自然と親しむ活動 2 異年齢・異世代交流活動 3 子育て支援活動 4 療育支援活動 5 フリースクール活動
金額	30万円～60万円(物品購入資金)
対象	上記の活動に定期的かつ日常的に継続して取り組んでいる民間の団体

助成物品の例



助成団体活動の様子



助成実績

2023年度	累計
256件 1億2,707万円	14,430件 89億9,300万円

年間スケジュール

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
募集告知 都道府県にて 申請受付					選考 委員会	理事会にて 助成先 決定	決定通知		贈呈式	

詳しくは
日本生命財団HP
児童・少年の健全
育成助成(物品助
成)へ!

助成趣旨

子どもを巡る社会的課題が広範、かつ複雑化するなか、健全育成に資する実践性高い研究の役割・重要性が高まっています。

当財団は設立40周年を機に、研究者と現場の専門職等実践家の協働による実践的研究を対象に、2020年度より助成を開始しました。

助成概要

上記趣旨のもと、「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」を基本テーマに、社会実装をめざす研究に対して助成を行っております。

分野	1. 健全育成のための教育、周到な準備を図る分野 (教育、予防的対応等を図る分野)	
	2. 健全育成にとって喫緊の対応を要する分野 (療育的対応等を要する分野)	
期間	2年間	1年間
金額	最大400万円	最大100万円
対象	研究者、または実践家 (1年助成は大学院博士課程在籍者も対象)	



▲研究チーム(SLIPER)のメンバーと発行書籍

2023年度助成「養護教諭のスキルラダーを活用したオンライン研修システムの開発」の概要。当研究チームは現役の養護教諭(保健室の先生)を中心に、10年前に結成され、養護教諭の育成を体系化しました。さらに、より効果的で効率的な自己学習ができるように、当財団の助成を活用し、Eラーニングの開発を目指します。

年間スケジュール

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
公募告知				選考 委員会	理事会にて 助成先決定					ワークショップ (助成成果報告会) 参加者募集期間	ワーク ショップ 開催
公募受付期間				選考		選考結果 通知		助成開始			

詳しくは
日本生命財団HP
児童・少年の健全
育成助成(実践的
研究助成)へ!

2023年度助成事例

代表研究者	研究テーマ
内海 ゆづ子 大阪公立大学 講師	画像認識に基づく障がい児 農業キャリア教育支援アプリの開発
中村 康香 東北大学大学院 医学系研究科准教授	コペアレンティングが児の 情緒的健康や社会的能力に及ぼす影響

1年助成

代表研究者	研究テーマ
早見 直美 大阪公立大学大学院 生活科学研究科 講師	ストレス対処に着目した 思春期食育プログラム-ICTを用いた評価実践
中村 富美子 静岡県沼津市立 大岡中学校 養護教諭	養護教諭のスキルラダーを活用した オンライン研修システムの開発
宮川 哲弥 東京都大学 人間科学部 准教授	VR技術を用いた児童相談業務の スキル向上、ストレスに関する研究

(注)上記含む計13件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。

助成実績

2023年度	累計
13件 1,963万円	56件 7,700万円

助成趣旨

高齢社会助成は、1982年度より将来の高齢社会を見据えた先駆的・実践的な事業への助成に取り組んでまいりました。
「人生100年時代の社会システム・持続可能な地域づくり」に向けては、コミュニティを基礎とした包括的支援体制の構築、地域共生社会の実現が必要です。当財団はこれらに対する活動・研究に対して助成を行っております。

助成概要

上記趣旨のもと、「地域福祉チャレンジ活動助成」「(若手)実践的研究助成」の2つのプログラムにより、これからの地域社会づくりの推進に資する助成を行っております。

プログラム	地域福祉チャレンジ活動助成
期間	2年間
金額	最大400万円(1年最大200万)
対象	多様なステークホルダーと協働で活動する団体

プログラム	実践的研究助成	
	実践的課題研究	若手実践的課題研究
期間	2年間	1年間
金額	最大400万円 (1年最大200万)	最大100万円
対象	研究者、または実践家	45歳未満の研究者 または実践家

年間スケジュール

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
公募受付期間				選考		選考結果通知	シンポジウム・ワークショップ開催の募集		シンポジウム・ワークショップ開催	シンポジウム・ワークショップ記録集発行	
公募通知						選考委員会	シンポジウム・ワークショップ開催の募集		シンポジウム・ワークショップ開催	シンポジウム・ワークショップ記録集発行	

詳しくは
日本生命財団HP
高齢社会助成へ！



2023年度助成事例

地域福祉チャレンジ活動助成

助成先団体	活動テーマ
社会福祉法人 京都福祉サービス協会	団地を中心とした 共生のまちづくりプロジェクト
NPO法人 知多地域 権利擁護支援センター	互助会運動型くらしあんしん サポート事業の創設と広域実施
認定NPO法人 市民セクターよこはま	認知症カフェ動画プロジェクト 「まちかどピクチャーズ」
社会福祉法人 ひょうご 聴覚障害者福祉事業協会	当事者と専門職の連携による 「きこえの健康支援体制」の構築事業

代表研究者	研究テーマ
[実践的課題研究] 武田 景敏 大阪公立大学医学部脳神経内科講師	芸術療法による若年性認知症患者の 行動・心理症状の緩和と家族支援
[若手実践的課題研究] 山鹿 隆義 名古屋女子大学 医療科学部 准教授	介護職員の危険予知能力評価尺度の 開発と安全管理研修への応用

(注)上記含む計15件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。



「まちかどピクチャーズ」
音楽のある認知症カフェ「結うカフェ」

2023年度助成 認定NPO法人 市民セクターよこはま「認知症カフェ動画プロジェクト「まちかどピクチャーズ」」の概要。当団体は、2016年度より「認知症カフェ(認知症の本人、家族、専門職、認知症に関心がある方が集える場所)」の普及に従事しています。今回の助成で、「認知症カフェ」の紹介動画を作成し、より具体的に多くの市民に知ってもらい機会をつくり、認知症になっても暮らしやすい社会の実現を目指します。

助成実績

2023年度	累計
15件 2,448万円	624件 17億1,600万円

顕彰趣旨

高齢社会を迎えるなか、元気で活力にあふれた高齢者の地域貢献活動が注目されています。当財団では、高齢者が主体となって行う地域貢献活動に対して、都道府県知事のご推薦に基づき顕彰し、地域活動の輪を広げてまいります。

顕彰概要

分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・少年の健全育成活動 (登下校時見守り活動、居場所づくり等) 2. 障がい者支援活動 (手話・点訳・朗読ボランティア活動等) 3. 高齢者支援活動 (高齢者の見守り活動、生活支援活動等) 4. 地域づくり活動 (環境美化・清掃活動、環境保護活動等)
顕彰	5万円
対象	地域の高齢者が主体となって行う 上記活動に取り組む団体

顕彰団体活動の様子



顕彰実績

2023年度	累計
214件 1,070万円	3,244件 1億6,200万円

年間スケジュール



詳しくは
日本生命財団HP
生き生きシニア活動
顕彰へ！



INFORMATION!

団体の活動を詳しく紹介した情報誌Fu-mi(ふみ)をご覧ください!
「児童・少年の健全育成助成(物品助成)」「生き生きシニア活動顕彰」の助成制度・団体の活動内容を紹介した情報誌です。 詳細はこちら→



各都道府県で贈呈式・懇談会を開催しています!

都道府県の協力を得て進めております「児童・少年の健全育成助成(物品助成)」「生き生きシニア活動顕彰」については、5月~7月頃に贈呈式・懇談会を全国の各都道府県庁等で開催しております。

この贈呈式・懇談会は、都道府県関係者のご参加のもと、地域に根差した地道な活動を続けてこられた団体の皆様に讃える場となっております。懇談会では、助成・顕彰を受けられた皆さまから、日ごろの活動の様子や率直なご意見を伺っております。



贈呈式の様子(埼玉県)



懇談会の様子(岡山県)

助成趣旨

当財団では、21世紀の社会が活力あふれる真に豊かな社会となるためには、調和のとれた社会・自然環境に支えられた、活力と創造性ある人間性豊かな生活環境を一層確立していくことが重要と考えております。そこで、豊かな人間生活にとって欠かせない基盤の一つである、環境の改善・充実に資する研究に対し、助成を行っております。

助成概要

上記趣旨のもと「人間活動と環境保全との調和」を全体のテーマとし、「学際的総合研究助成」と「若手・奨励研究助成」の2種類の研究助成を行っております。

学際的総合研究助成については、その時々々の環境問題をめぐる社会的な重要度等に対応するよう募集テーマを設定しております。

プログラム	学際的総合研究助成	若手・奨励研究助成
募集テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成 気候変動の影響や自然災害に対する適応力の強化 	助成趣旨を踏まえた研究(特段のテーマ設定はありません)
期間	2年間	1年間
金額	1,000万円~1,500万円	50~150万円
対象	多方面・多分野の大学研究者と実践家と協働して推進する研究	45歳未満(学生・院生は除く)

年間スケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
公募通知					選考委員会1回目	選考委員会2回目		理事会にて助成先決定		ワークショップの参加者募集	ワークショップの開催	
公募受付期間	←			→								
選考	←			→								
選考結果通知												

詳しくは
日本生命財団HP
環境問題助成へ！



2023年度助成事例

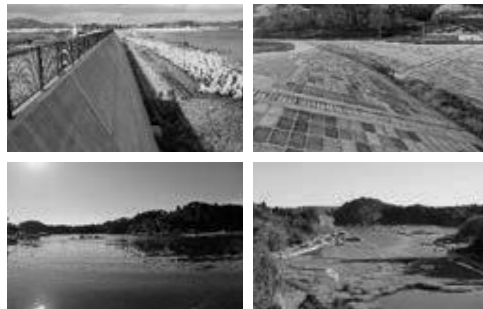
学際的総合研究助成

代表研究者	研究テーマ
横山 勝英 東京都立大学 都市環境学部・教授	塩性湿地の創出を基軸とした災害に強い森里海まちづくり

若手・奨励研究助成

代表研究者	研究テーマ
飯田 碧 新潟大学佐渡 自然共生科学センター 臨海実験所・准教授	多様な河川環境での稀少な甲殻類の生息環境の理解と保全への提言
内田 健太 東京大学大学院 農学生命科学研究科・ 日本学術振興会特別研究員PD	エゾリスをモデルとした都市におけるロードキル予測マップの作成

(注)上記含む計28件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。



2023年度学際的総合研究助成先の研究フィールド
 上段:防湖堤のある風景 下段:防湖堤のない風景(気仙沼市舞根地区)
 気仙沼市舞根地区は東日本大震災後、塩性湿地に着目し、防湖堤に頼らない街づくりを行っています。この地区を対象とした研究を通じて、環境と防災に配慮した国土形成のあり方を探る学際性の高い成果が期待されます。

助成実績

2023年度	累計
28件 4,000万円	1,332件 30億1,200万円

助成趣旨

助成成果の社会還元や地域文化の振興等を目的に、出版助成を行っております。現在、下記の2つの助成プログラムを実施しております。

1.環境問題研究助成成果発表助成

環境問題研究助成の研究成果の普及を目的に、過去の研究助成対象者に対して、優れた研究結果の成果発表としての出版物の発刊に対して助成を行っております。

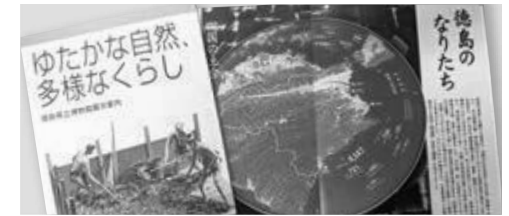
2.博物館展示案内出版助成

地域文化の振興や青少年の文化教育に資するため、各地の博物館の協力を得て展示案内書を出版し、当該博物館をはじめ所在地県内の小・中・高等学校・図書館等に寄贈しております。

出版助成による刊行書籍



環境問題研究助成出版(累計60書目)



2023年度助成「徳島県立博物館」(シリーズ第80作・65館)

助成実績

2023年度	累計
4件 676万円	397件 13億8,200万円

INFORMATION!

博物館展示案内出版助成のあゆみ

博物館展示案内出版助成は1983年度より開始されました。当助成は、博物館活動の支援を通じて地域文化振興に協力するとともに、地域の児童・少年の文化教育に資することを目的として実施され、小・中学生にも理解しやすい展示案内の制作をめざしております。

2023年度までの累計では、右図の通り、全国各地の65館が助成対象となっており、再版を行った館も少なくありません。

当助成を通じた取組みは、1994年のメセナ大賞で「地域の文化の振興、普及そして教育に貢献している」と評価され、メセナ普及賞を受賞いたしました。また、2018年には公益財団法人日本博物館協会から「永年にわたり日本全国の博物館の振興に多大な貢献を行った」との評価をいただき、「博物館協会創設90周年特別表彰」を受賞いたしました。



2023年度までの助成先博物館の分布



2023年度贈呈式(於:徳島県庁、2024/3/14)

「児童・少年の健全育成助成(実践的研究助成)」「高齢社会助成」「環境問題研究助成」では、シンポジウム・ワークショップを通じて、成果報告を行い、成果の社会還元を行っています。



助成事業名称	日時	内容
児童・少年の健全育成助成 (実践的研究助成)	2023年 11/23(木)	2023年度 実践的研究助成ワークショップ (161名参加) '20-'22年度採択 2年研究・1年研究11名より発表
高齢社会助成 高齢社会助成のシンポジウム・ワークショップの内容をまとめた記録集を発行しています。詳細以下の二次元バーコードより確認下さい。	2023年 12/8(金)	第30回高齢社会ワークショップ (220名参加) '21-'22年度採択 [若手]実践的課題研究6名より発表
	2023年 12/9(土)	第36回高齢社会シンポジウム 「高齢社会を共に生きる」-人生100年時代に向けた持続可能な新しい地域づくり- (530名参加) ●菊池 馨実氏(早稲田大学理事・法文学術院教授)による基調講演 「全世代型社会保障に向けた課題と展望」-新しい地域づくりを通じた共生社会へ- ●'21年度採択 地域福祉チャレンジ活動助成4団体より発表 ●総合討論
環境問題研究助成	2023年 11/25(土)	第38回環境問題研究助成ワークショップ (102名参加) 「再生可能エネルギー事業における中間支援と認証制度」をテーマに、成果発表・総合討論を実施
	2024年 3/15(金)	第39回環境問題研究助成ワークショップ (110名参加) 「自然資本管理のすすめ方～多様なセクターの参加による自然資本管理のための論理と技術～」をテーマに、成果発表・総合討論を実施

INFORMATION!

研究成果をまとめた書籍を刊行!



- ①「大学の森」が見た森と里の再生学:
京都芦生・美山での挑戦
助成期間:2018年～2019年 学際的総合研究助成
- ②里山”超”SDGsとはじめ:
京北での2年間の活動の軌跡と未来への誘い
助成期間:2020年～2021年 学際的総合研究助成
- ③「0から100歳の地域包括ケア」への挑戦
-大学と地域の協働研究-
設立40周年記念特別委託研究事業

理事・監事・評議員名簿

理事

会長	山極 壽一	京都大学 名誉教授 総合地球環境学研究所 所長
代表理事 理事長	林 武史	
代表理事 常務理事	水野 充彦	
	大原 謙一郎	公益財団法人大原芸術財団 大原美術館 名誉館長
	小林 哲也	近鉄グループホールディングス株式会社 代表取締役会長
	白澤 政和	国際医療福祉大学大学院 教授
	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関 理事長 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授
	玉越 良介	株式会社三菱UFJ銀行 名誉顧問
	筒井 義信	日本生命保険相互会社 代表取締役会長
	鳥井 信吾	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長
	松見 淳子	関西学院大学 名誉教授

評議員

	石川 幹子	東京大学 名誉教授 中央大学研究開発機構 機構教授
	上野谷 加代子	同志社大学 名誉教授 日本医療大学 教授
	尾崎 裕	大阪ガス株式会社 相談役
	上出 恵子	活水女子大学 名誉教授
	櫻田 典子	弁護士
	澤 芳樹	大阪大学 名誉教授 大阪警察病院 理事長・院長
	清水 博	日本生命保険相互会社 代表取締役社長 社長執行役員
	中村 吉隆	日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員
	三木 章平	公益財団法人日本生命済生会 理事長
	鷲谷 いづみ	東京大学 名誉教授

監事

岩崎 貢	日本生命保険相互会社 専務執行役員
櫻井 美幸	弁護士

2024年4月現在 五十音順(敬称略)



所在地	〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目1番7号 日本生命今橋ビル4階
連絡先	TEL.06-6204-4011~4 FAX.06-6204-0120
URL	https://www.nihonseimei-zaidan.or.jp
助成プログラム	児童・少年の健全育成助成(物品助成) 児童・少年の健全育成助成(実践的研究助成) 高齢社会助成 生き生きシニア活動顕彰 環境問題研究助成 出版助成

詳しくは
日本生命財団
公式HPへ!



広島県との「包括連携協定」締結について

広島県と
日本生命保険相互会社及び
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との
包括的連携に関する協定締結式



2022年11月11日、日本生命およびあいおいニッセイ同和損害保険は、相互連携と協働取組を推進し、一層の県民サービス向上と県内地域の活性化に資するため、**広島県と「包括連携協定」**を締結しました。

<協定項目と今後の主な取組>

1

●県産品の販売促進に関すること

当社事業所での県産品フェア等を開催し、県産品の販路拡大へ協力します。

2

●県政情報の発信・観光振興に関すること

当社事業所において、県観光ビラ等の配架やポスター掲示を実施します。

3

●地域防災に関すること

『広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動』に賛同し、防災に関する啓発活動を実施します。

4

●地域の安全・安心に関すること

チラシ・ポスター等により**自転車の安全利用に関する啓発活動**を実施します。**広島県の自転車損害賠償保険等への加入に関する条例**に対応したニッセイ個人賠償プラン**「まるごとマモル」の販売件数に連動し、広島県交通安全協会へ寄付**を行います。

5

●環境対策・リサイクルに関すること

「ニッセイの森」の間伐材を活用した**「樹木名プレート・学校の木のしおり」**を学校等へ寄贈する活動を通じ、環境保全教育に取組みます。

6

●女性の活躍・働き方改革に関すること

男性育休取得推進および女性活躍推進における日本生命の取組を紹介し、女性の再就職相談窓口のPRに協力します。

7

●少子化対策・子育て支援・青少年育成に関すること

当社職員向けの出産・育児をサポートする制度や取組の紹介や「子育て支援企業」向け金利優遇制度等を通じ、子育て支援を実施します。

8

●高齢者支援・障がい者支援に関すること

当社職員が、高齢者への声かけ等の見守り活動を実施し、万一異変を察知した際には各市町村の連絡窓口へ通報します。

9

●健康増進・食育に関すること

チラシ等により**「がん検診」受診の促進**を図ります。車いすバス講演会・体験会や当社野球部・女子卓球部等によるスポーツ教室を開催します。

10

●教育・文化の振興に関すること

中高生を対象に、ライフデザイン、将来設計等をテーマにした**「出前・受入授業」**を実施します。

11

●その他、県民サービスの向上、地域社会の活性化に関すること

今後も地域社会への貢献を推進してまいりますので、引き続き日本生命をよろしくお願いたします。

763-24-001 / 期限(26/3)



日本生命保険相互会社
広島支社

※「がん検診は、正しい方法を正しく行うことで、がんによる死亡リスクの低下が期待できる一方、「エックス線検査による放射線被ばく」等のデメリットがあるとされています。がん検診に対する理解を深め、健康と安心のために適切に利用してください。詳細については「がん検診」についての解説ビラをご覧ください。」